

都留文科大学比較文化学科創設 20 周年記念シンポジウム
 20 周年記念論集『せめぎあう記憶—歴史の再構築をめぐる比較文化論』
 (柏書房、2013 年 2 月刊) を題材に

国際関係に開かれたインドの民族運動

2013 年 3 月 16 日

水野光朗

1.インドの民族運動と国際関係

「…民衆の動きの叙述は、不断に開かれた国際関係との関連でしかすすめられない (中略)。それは、インドの一国史がインドの一国史だけでは決して完結しないという現代史的な条件と現代史認識の根本にかかわる。」

中村平治著、『南アジア現代史 I インド』、山川出版社、1977 年、2 ページ。

2.二つの世界大戦とインドの民族運動

	会議派の対応	会議派による民族運動の目標	会議派の判断根拠	連盟の対応	連盟の判断根拠	共産党の対応
第一次世界大戦	戦争協力	自治	イギリスの戦争勝利はインドの利益に連なる	戦争協力	イギリスの戦争勝利はインドの利益に連なる	(未成立)
第二次世界大戦	戦争非協力	独立	イギリスはインドと事前に協議せず開戦	戦争協力	イギリスからのムスリム多住国家の樹立支援と引き換えに戦争協力	独ソ開戦を機に、戦争非協力から戦争協力に路線転換

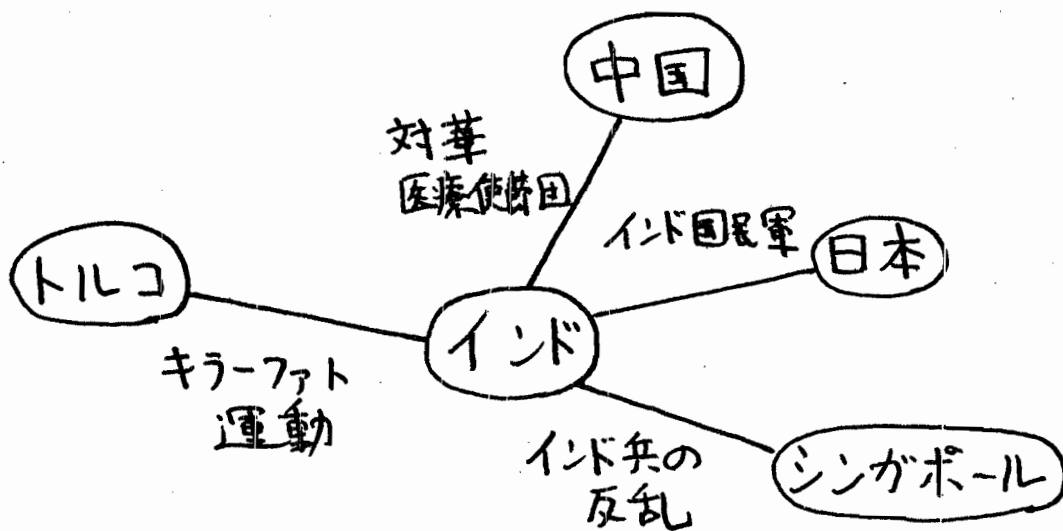
会議派=インド国民会議派、連盟=全インドムスリム連盟、共産党=インド共産党

中村平治著、『インド史への招待』、吉川弘文館、1997 年、125-126 ページを参考に報告者作成

3.今後さらに検討する必要がある事柄

- a) 連盟の国際関係認識、とくにパレスチナ問題、ユダヤ人問題、イスラエル建国問題
- b) 共産党の国際関係認識、とくにコミンテルンとの関わり
- c) 国際関係からのインドの民族運動の捉えなおし/捉え返し

インドの民族運動と国際関係



インドの民族運動からみた インド国民軍：

インドは、インド国民軍を通じて、「インドはイギリスとは別の存在であること」、およびイギリス植民地支配からの独立を求めていることを、国際社会に訴えることを意図していた。かならずしも、「インド国民軍=日本帝国主義の先兵・手先」ではない。